

地域に密着した介護サービスを提供する、
伊野本陣の家族便り

伊野本陣は、い〜のお〜 5月号

平成25年5月10日発行 第42号



遠足



4月3日には、もくせい・やまもも合同で松江方面へ遠足に出掛けました。松江城山でのお花見を計画していましたが、あいにくの天候で急遽予定を変更し、地ビール館にて「そば定食」をいただき、松江歴史館で松江の城下町など展示物を見学しました。

4月25日つばきの皆さんは「安来節演芸館」へ遠足に出掛けられました。職員もどじょう掬いを習い、ステージで踊りました。

お花見外出



今在家のチューリップ畑や斐川公園のツツジを見に出掛けました。

天気の良い日には、外出したり、庭へ出て草取りをされたり、皆さん積極的に外へ出掛けていらっしゃいます。

運営推進会議



今回の運営推進会議では、認知症サポーターの一環として、職員で結成した伊野劇団による寸劇を行いました。



5月の行事予定

5月13日 お気楽座

端午の節句に「ちまき」や「柏餅」を食べるのはなぜ？

5月5日は「こどもの日」。特に男の子は、五月五日の端午の節句に子供の幸せと健やかな成長を祈る儀式をします。端午の節句は、もともとは5月のいちばん初めの午の日をさしました。端という語には、ものごとの始まりという意味があります。中国では蓮や菖蒲を用いて邪気を払ったのが始まりとされています。のちに、鎌倉時代頃から菖蒲が尚武と同じ読みであることなどから男の子の成長を祈る儀式へと変化してきました。こいのぼりが一般に広まったのは江戸時代になってからだそうです。

「ちまき」は、今からおよそ2300年前に中国で始まったもので、それから約1000年の時を経て、端午の節句と共に日本に伝わったとのこと。

「柏餅は」を食べる風習は日本独自のもので、「柏」は新芽が出ない限り古い葉が落ちないことから、家系・後継者が絶えない＝子孫繁栄に通じる縁起の良い木と考えられています。柏餅には葉の表を外に向けて巻いているものと、裏を外に向けて巻いているものがあり、この違いは中身の違いを表していて、小豆あんのときは柏の表を外向けに、味噌あんの時は裏を外向けに巻いてあるそうです。



『い〜のお〜』をご覧くださいありがとうございます。別紙にてご案内させていただきました通り、6月8日（土）に伊野本陣庭の草取り作業を行いたいと思います。

16:00～18:00を予定しております。お忙しいこととは思いますが、ご都合がよろしければご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

発行 有限会社 伊野本陣

- ・小規模多機能型居宅介護 もくせい
- ・グループホーム やまもも
- ・デイサービス(認知症対応型) つばき

ところ 〒691-0073 出雲市美野町504

(平田中心街から車で10分。一畑電鉄伊野灘駅から徒歩1分)

電話 (0853)67-9180

FAX (0853)67-9181

ホームページ <http://inohonjin.jp/index.php> (または「伊野本陣」で検索)

Eメール inohonjin@hit-5.net

お問合せ対応時間 午前9時～午後5時(年中無休)

経営理念
安心と尊厳の
ある生活を
営むことの支援

ケア理念
共に喜び
共に楽しみ
共に笑って
共に過ごす

